

平成17年国勢調査第1次基本集計結果（福井県分）の概要

〔基準日：平成17年10月1日〕

基本集計

国勢調査のすべての調査票を集計した確定値で第1次から第3次に分けて公表される。

第1次・・・人口・世帯・外国人・高齢者世帯等

第2次・・・労働力状態・産業別構成等（平成19年1月予定）

第3次・・・職業別人口構成・母子世帯等（平成19年12月予定）

1 人口 ……高度経済成長期以後では初めてのマイナス

- 福井県の人口は、821,592人で、前回（平成12年）に比べ7,352人減少（▲0.9%）し、高度経済成長期以後では初めてマイナスとなった。
- 男女別にみると、男性が397,271人、女性が424,321人で、女性が27,050人多く、人口性比（※）は前回の94.3から93.6と低下している。
- 都道府県別にみると、前回に比べ15都府県で増加し、北陸3県を含む32道県で減少した。

2 年齢別人口 ……高齢化が進行

- 年齢3区分別にみると15歳未満人口は、120,745人（県人口に占める割合14.7%）、15～64歳人口は513,858人（同62.5%）、65歳以上人口は185,501人（同22.6%）となっている。
- 前回に比べて、15歳未満人口は1.0ポイント、15～64歳人口は1.3ポイントそれぞれ減少したのに対し、65歳以上人口は2.2ポイント増加しており、高齢化が進行している。

3 世帯数と世帯人員 ……一般世帯の1世帯当たり人員は、全国で2番目に多い

- 福井県の世帯数は269,577世帯で、前回調査に比べ9,965世帯増加（3.8%増）している。
- 一般世帯（※）の1世帯当たり人員は3.00人で、全国で2番目に多いものの、前回に比べ0.14人減少している。
- 世帯数の増加と1世帯当たり人員の減少は、昭和30年以降一貫して続いている。

4 世帯の家族類型 ……3世代世帯の割合は、全国で2番目に高い

- 核家族世帯は、139,000世帯（一般世帯に占める割合52.0%）で、このうち「夫婦のみの世帯」は47,397世帯（同17.7%）、「夫婦と子供から成る世帯」は71,444世帯（同26.7%）となっている。

- 単独世帯は、59,618世帯（同22.3%）となっている。
- 「夫婦と子供から成る世帯」が減少する一方、「夫婦のみの世帯」と「単独世帯」は増加傾向が続いている
- 3世代世帯（※）の割合は20.2%で、全国で2番目に高い。

5 配偶関係 ……30～34歳の女性の未婚率は、全国で最も低い

- 15歳以上人口の未婚率は、男性が27.4%、女性が18.8%で、前回に比べ、男性は0.1ポイント低下し、女性は同率である。
- 全国で出生数が最も多い30～34歳の女性の未婚率をみると、本県は24.1%で全国で最も低い。

6 住居の状況 ……持ち家率の高さは全国第3位、1世帯当たりの延べ床面積の広さは全国第2位

- 持ち家率は75.8%で、全国で3番目に高い。
- 住宅に住む一般世帯の1世帯当たりの延べ面積は、138.5㎡で、全国第2位の広さである。

7 市町村別人口 ……3市4町で増加し、4市24町村で減少した

- 福井市が269,144人（県人口に占める割合32.8%）で最も多く、次いで坂井市が92,318人（同11.2%）、越前市が87,742人（同10.7%）となっている。
- 最も少ないのは池田町で3,405人（同0.4%）、次いでおおい町の9,217人（同1.1%）となっている。
- 前回に比べ敦賀市、旧武生市および福井市周辺の鯖江市、旧丸岡町、旧春江町、旧坂井町、旧清水町の3市4町で増加したものの、4市24町村で減少した。（備考：平成の合併前の市町村単位で算出）

8 外国人人口 ……中国人が最も多い

- 外国人は、10,803人で、前回に比べ942人増加（9.6%増）したものの伸び率は鈍化している。
- 国別にみると中国が3,591人と最も多く、「韓国または朝鮮」が3,097人、ブラジルが2,248人で続き、この3か国で全体の約83%を占めている。

《用語の説明》

人口性比・・・女性100人に対する男性の数

一般世帯・・・学生寮、病院、社会施設等を除く世帯

3世代世帯・・・世帯主との続き柄が、祖父母、世帯主の父母、世帯主、子および直系世代のうち、3つ以上の世代が同居している世帯をいい、それ以外の世帯員がいるか否かは問わない。